

会議録（要点筆記）

会議名	第2回米原市総合計画審議会
開催日時	平成27年7月30日（木）午後7時00分～午後8時45分
開催場所	米原庁舎 会議室2A
出席者および欠席者	出席者：岩崎恭典委員（会長）、鶴飼修委員（副会長）、西林正夫委員、振角大祐委員、川崎祐七委員、北川学委員、小竹一男委員、竹中礼子委員、田中雄一委員、鏑田鉄雄委員、富岡尚子委員、中野民子委員、福永ひろみ委員、森嘉信委員、安田智枝美委員 事務局：田中祐行政策推進部長、山田英喜政策推進部理事、みらい創生課：西村善成課長、政策推進課：小寺真司課長補佐、森川誠、川瀬雅史、関沢匡司、福井敏 傍聴：なし 欠席者：なし
議題	・前回のまとめ ・基礎調査資料について ・米原市総合計画後期基本計画の成果と課題について
結論	・米原市総合計画後期基本計画の成果と課題のうち、第1章から第2章までの項目について、次期総合計画で考慮すべき方向性などを検討した。 ・次回は、第3章以降について検討する。
審議経過	1 開会 （事務局から開会あいさつ） 2 あいさつ （会長から開会あいさつ） 3 議事 （1）前回のまとめ 事務局から、前回の概要を説明 （2）基礎調査資料 事務局から資料1の第1章について説明 事務局 会長 委員 会長 米原市の現状について、数字で説明していただきました。今の説明で何か聞いておかなければならないことはありますか。 意見なし 米原市の総合計画後期基本計画の成果と課題について説明してください。

事務局	<p>(3) 米原市総合計画後期基本計画の成果と課題について 事務局から資料2の第1章について説明</p>
会長	<p>次の計画で引き継ぐもの、新たにこれは取り上げていかなければならないのではないかというような項目について御意見をいただきたい。</p> <p>まずは第1章についてです。今年の国勢調査が、日本全国で世帯数のピークを迎えるかもしれません。それはどういうことかということ、いよいよ世帯が減るといふ状況に来たということです。</p> <p>核家族で世帯の構成人員が減っていますが、高齢2人暮らしとか、単身高齢者の一人暮らしとか、そういう世帯が多くなって世帯の人員が減っていくという状況が顕著になりはじめたという数字が多分出てくるだろうと思います。</p> <p>先ほどのスライドを参考にされながら、まずは第1章の項目について、どんな点でも結構ですので、御意見を言っていただければと思います。</p>
委員	<p>私は小中学校の制服や体操服を販売しています。何年か前の広報まいばらで、今後10年間の学校統合計画が出ていたと思います。部活動のために柏原中学校入学予定の方が大東中学校に来ておられます。今後、部活の合同チームができるのであれば、小学校からそのまま中学校にあがれるのだけどといった質問をされたりしています。学校統合計画を気にしておられるお客さんが結構おられますので、今度の計画に向けて入れてもらえると良いと思います。</p>
事務局	<p>小規模校の考え方については、過去色々な経過があり、柏原については、一度は統合するというお話がありましたが、地域が疲弊するというお話もあり、統合がなくなった経過があります。現在、地域で学校の授業の一部をやっていただいている事がありますので、小規模校の在り方として、現状を維持していきたいと考えています。</p>
会長	<p>小規模校を維持したいということですね。</p>
事務局	<p>今の部活の事は、教育委員会の中でも話題となっていますので、教育部局と市長とで、どうしていくのが一番いいのか、子どもにとってどうするのが一番いいのかを含めて総合教育会議などで検討していきたいと思っています。</p>
会長	<p>だからこそ学校間交流とか小中連携によって、小規模校のデメリットを克服する必要があるという評価をされているのですね。</p>

委員	<p>学校と地域との連携ということが何か所か出ていますが、今、学校支援地域本部事業をされているかと思います。それがうまく回れば学校と地域のつながりをつくれるかと思いますが、よりそのつながりを増やしていくために、今、学校支援地域本部事業をそのままより充実させていくのか、あとはコミュニティスクールなどもあるかと思いますが方向性などは決まっていますか。</p>
会長	<p>おそらく2年以内にはコミュニティスクールが義務づけになる国の動きです。だから学校支援本部、地域支援本部、それからコミュニティスクールも地域で学校を支える仕組みが制度化されるのは多分、次の計画期間中には確実だと思います。</p>
委員	<p>5ページの上の方に学びサポーターの活用率と書いてありますが、これはどのような計算式で出ていますか。「生涯学習の推進」の満足度の中に入れられたらいいのではないかと思います、その点についてはいかがですか。</p>
事務局	<p>学びサポーターの活用率は、これは平成25年度の数字ですが、133人登録者がいらっしゃって、実績が23ありました。登録者数に比べて利用がどれだけあったかということで率を出しています。</p> <p>学びサポーターとは別に出前講座もさせていただいています。出前講座の利用率はここには出ていませんが、かなり利用させていただいています。出前講座は市役所内部の各部局が、団体や自治会の要望に応じて説明にあがらせていただいて、介護の勉強をしましょうとか、教育なら学校現場のことを話しましょうというのが出前講座です。学びサポーターはその方が個人でお持ちの技術をお教えしましょうという制度になりますので、個人さんの都合と自治会や団体の要望が合わないということもあり、活用が進まないということもあります。</p> <p>今、委員から御指摘をいただいたように生涯学習の推進の満足度に包括してもいいのではないかと御意見をいただいていますので、次回、指標を設定する時には検討してもらおうよう担当課に伝えます。</p>
委員	<p>私は、地域創造会議を担当させてもらっていますが、伝統文化をいかに継承していくかというところで、苦勞されている団体が結構あるように思います。ここにも書かれていますが、伝統文化を守っていくというところで、今後も支援といえますか、評価していただきたいと思います。</p>
事務局	<p>今の御意見については、これからの課題になってくると思いますし、もう一つ、</p>

委員	<p>ここに記載がありますように、重要文化的景観の指定も受けていますのでテーマとしてあげていきたいと思います。</p> <p>狙いとか目指す姿で目標を設定し、それを実証する指標項目を作って実証し、そこから出てきた課題という構成になっていますが、割とファジーだなと思います。指標項目がこれで合っているのか。ちょっと再考をした方がいいのではないかと考えています。</p> <p>取り組みとしてはたくさんやっておられるので、実際やったことが、どこを高めるためにやったのか対応してくるのが本来あるべき形なのかなと思います。</p>
事務局	<p>今、御指摘いただいている点は、行政がやっていること全般にも言えるのですが、なかなかやっていることを数値化するのが難しいというところで、数値化できる場所を選んで指標としていますので、ギャップが出てしまうのかなと思います。総合計画以外でも目標数値を設定している部分がありますが、同じような御指摘をいただきますので、今後はできるだけやっていることを数値化できるようにしたいと思います。</p>
委員	<p>ちなみにそれでいうと、定量的な評価というのは確かにそうだと思いますが、定性的な評価というのは、市民の意識調査でされていますが、どういう意見が出ていますか。</p>
事務局	<p>市民意識調査の方では、総計の報告に合わせて、例えば、1、2、3、4、5の数字を選んで、一定以上という見方をしています。どんな意見をお持ちかとか、どうしたいかというのも検討したいと思います。</p>
会長	<p>だからこういう会議で皆さんの意見を寄せていただきたいということになるわけです。例えば、教育内容、施設の充実の満足度が80パーセントで目標値に達しているけれども、ひょっとすると皆さんの中には本当かとお思いになっていらっしゃる方もおられるのではないかと。そういう意見をお寄せいただいてもいいのではないかと思います。</p>
委員	<p>市民意識調査は自分にも来たことがあるので内容はわかります。質問の項目と全く関係のない人には、全くわからないような質問に対しては、適当に答えているということもあると思います。例えば、学校の特別支援の事をどう思いますかという質問がありましたが、それも5段階で評価をするということですが、</p>

事務局	<p>子どもが特別支援の対象になっていると、現実としてその評価を付けることができますが、例えば、おじいちゃんやおばあちゃんとか、子どもが小学生の保護者でも、その対象でない人からすれば評価できないことだと思います。市民意識調査なので、仕方がないのかもしれませんが、今回の文化スポーツの推進の満足度や生涯学習もそうですが、人権の尊重の満足度も成人の方が対象だったと思うのですが。</p> <p>18歳以上です。</p>
委員	<p>大人ですね。そうしたら子どもたちの意見としてはどうかというところもあります。数字と現実はやっと違ふと捉えた方がいいのかなと思います。</p> <p>それから教育内容や施設の件では、例えば、小学校のテストなどは、やったところの内容が分かっているかどうか把握するために単元が終わるごとにやっていると思いますが、それで十分な点数を取れていない子どもに対しての手当というか、あとからの補充がどれぐらいされているのかというところが、今は各家庭に任されていると思っています。内容も80パーセント満足となっていますが、本当に学校の教育がそれでいいのか、いいと思っているのかというところで大分違うのではないかと思います。最終学歴のところにもありましたが、あれは学校の力というよりも親がどれぐらい熱心に塾に通わせたかどうかという、その辺の影響の方が大きいのではないかと私は思います。だから数字だけではなくて、細かく見ていくことが必要かなということと、先ほどちょっとコミュニティスクールのお話が出ていましたが、公立の学校だけではなくて、民間で何かつくるようなフリースクールのようなものも、長期欠席率のところから思ったのですが、今のところ市内の小中学校の選択肢は公立しかありませんので、何かしら民間へのサポートがあってもいいと思います。</p>
会長	<p>確かに長期欠席率が中学生の場合2.57パーセントありますが、そういう子どもたちに対して学校に行けということが追い込むことになる。そうするとフリースクールという場所があつて、勉強も好きなことをやりながら、ちょっとずつ学校生活に慣れていく仕組みをバックアップできるような体制があつてもいいのではないかと思います。選択肢を増やすということです。他にはいかがですか。</p>
委員	<p>今、いただいている皆さんの御意見と近いところもありますが、7ページ、人権の部分について、満足度ですが、調査の仕方も含めて、例えば、障がい者の方自身は実際本当に権利を守られている率でいえば、これ以上、これ以下という可能性もありますし、そういう部分を捉えていかなければならないのかなとか、学</p>

<p>会長</p>	<p>校へ行かないとか、子どもは親が育てるべきだとか、社会で育てるという多様な価値観を認め合うぐらいの習熟度が指標になるような形といますか、そのような働きかけを人権、権利擁護のところで施策ができるといいと思います。</p> <p>当事者の意見を踏まえるというのはすごく重要なことです。おそらく担当課は、それぞれ聞いて施策を出していますので、そこをもう少し大切に、その中で指標になるものがあれば、なお一層いいのではないかと思います。そのほかの部分でどうでしょうか、第2章の説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料2の第2章について説明</p>
<p>会長</p>	<p>第2章、福祉の部分ですから、皆さんの中には実際に取り組んでおられる方もいらっしゃいますし、色々とお考えがあると思うのですが、いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>かかりつけ医がある人の割合が平成24年の実績で73.3パーセント。28年度の最終目標値を上回っているのはなぜですか。28年度の目標値は実績を見る前に設定されていたということですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そのとおりです。</p>
<p>委員</p>	<p>地域にかかりつけ医を作っていただくのは、介護を提供させていただく上でも、急変があった場合にすぐに対応していただける、すぐにつながるという安心感が非常に高いと思いますので、そういうのも進めていただきたいと思います。</p> <p>親子の絆のところの学童保育についても、社協の方でも2か所させていたいただいています。現在、坂田小学校の方や大原の方の学童さんが多く、坂田小学校では100人近いお子さんを預かっています。厚労省のガイドラインを見ると、1学童が40人と定められていますので、子どもの過ごし方を考えますと、そういう形が望ましいですが、なかなか空き施設がないという中で、行政の方もいろいろ努力していただいています。やはりその子のその時というのは今しかありませんので、対応を一緒に考えていきたいと思っています。</p> <p>そして引きこもりやニートの部分、また今年度から生活困窮者の自立支援事業が福祉の側面に出てきました。相談対応だけでは、その方の自立は望めない、福祉だけではなく就労や農業といった分野を横断した出口づくりが求められているのではないかと、事業をさせていただいている中で実感しています。</p> <p>それから、生活支援の部分でいうと、地域のお店がなくなってきて、本当に身</p>

	<p>近なところで買い物をしながらなんとか衣食を維持されていた方が本当に御苦労されているというのが実感としてあります。移動販売なども考えてはいますが、それで全て網羅できるわけでもありません。その辺の生活支援の面も非常に課題となっています。</p> <p>例えば、お買い物についても、配達があっても、これから先、非常に心配しているのは、銀行でのお金の出し入れというのがしづらくなってくのではないかと思います。外交員さんもどんどん減ってきていますし、本当に今まで農協さんとか、努力していただいていたのですが減ってきているのが実情で、実際に買い物をしようと思ったらお金がいきます。その辺をどのようにフォローしていくのかということも感じています。</p> <p>それから障がい者について先ほども言いましたが、障がい者の権利条約もできて、やはり合理的配慮というのがだんだん求められてきています。その周知や、ハード面だけではなく、ソフト面としての働きかけが必要だと実感しています。</p> <p>あとは全体として市の人口が減少していくという中で、介護予防では地域の人材の活用を求めています。半分逆行しているような、求められていることと地域の現実に非常にギャップがありますので、そこを支えていくための機能として、みんなが知恵を出し、福祉だけではなく、仕事であったり、農業であったり、あらゆるところがつながり、総合的に横断的にやっていかなければならないと思っています。</p>
会長	<p>国は2025年までに地域包括ケアシステムを整備するようになっています。先ほどの介護難民の話であるとか、健康維持の話、社会参加、そういったものを地域包括ケアシステムはだいたい網羅していかなければいけない。そうすると、それは今度やっていく総合計画の中では、地域包括ケアシステムの地ならしということをも明確に位置付けておく必要があるのではないかと思います。それは社協の立場ではどうでしょうか。</p>
委員	<p>昨年、市と一緒に地域福祉計画を策定しました。その中には、市としては、特に担当課の部局では地域包括ケアシステムを見据えた計画として、既に策定されているので、どちらが後先というわけではありませんが、その部分は課題意識をいただいているのが現実であると思っています。</p>
会長	<p>そういう中で、包括ケアシステムを見据えた総合計画を作っていくことからいうと、農業や林業との連携であるとか、そういう話が少し色濃く出しておく必要はあるし、何よりも中学校区ぐらいで生活支援を近所の人がして、そしてそれがずっと持続できるような仕組みというものを作っていく事が極めて望ましいこと</p>

<p>委員</p>	<p>になります。そうすると、それは例えば、コミュニティビジネスの話であるとか、そういうものを計画の中で位置付けておく必要があるのではないかと思いますので、その点いかがですか。</p> <p>全くそのとおりだと思います。農業林業もそうですし、やはり福祉の施策だけではなくて、小さな拠点づくり事業は福祉とマッチさせていけば、使える部分が非常にあるのではないかと思います。担当部局さんとお話しさせていただいているといいますか、こちらが教えてもらっています。その辺を横断的に捉えていかないと、限られた人材ですし、やはり小さい市ならではのやり方があることをお話しさせていただいています。</p> <p>もう一つは、予防事業が本当に大事だということです。予防事業だったり生活困窮者のところでも、予防したことによってどれだけそこにかかるお金が、長期的にみたらというところが、なかなか評価しづらい事ではありますが、非常に大事だなということを常々思う部分があります。</p>
<p>会長</p>	<p>そこは何かうまい指標があればいいなと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>市が持っている医療費関係のデータはほぼ国保のデータになりますので、国保は自営業の方や高齢者の方が大部分です。そのほかの方のデータはそれぞれの健康保険組合が持っておられるので、なかなかそこまで踏み込んだ指標の設定が難しいというのがありますし、先ほどの教育と一緒に、成果を表す指標のどれが正しいのかということがなかなか設定しづらいというのがありますので、それはまたアドバイスをいただきながら検討したいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>12 ページの文言についてですが、支援を要する児童の増加に伴う加配指導員という書き方がされていますが、これは今年から支援員という言葉になったのではないかと思います。それから、公立幼稚園のところの最後の方に、民でも運営が可能な施設を見分け、行政として一定の保育サービスを確保するという観点から、「指導監視役に徹し」という言葉がありますが、指導というのは、まさしく指導していただいていると思いますが、監視役という言葉はどうなのかと思いました。</p> <p>市の中では2歳児の50パーセントが保育園に入ります。低年齢児がどんどん入ってくる。私は40年近く保育園にいますが、3歳未満児で6人から7人といった時代がありましたが、今は0歳児が9名来ている状態です。9月には10名になる。そこで保育士も足りない。保育士の質も、いろいろと研究保育などをしながら高めてきましたが、免許を持った人を入れなければ、監査を受けられないという状</p>

委員	<p>況になるので、保育園の中は大変苦勞しています。また、おうみ認定こども園は、100人の乳児さんが来ていて、240人の幼児が別のところで生活していて、先生方が80人近くいる中で保育をなされています。うちのように定員が60名で、どの子の顔も名前も分かって、親も分かって、声もかけられているという、そういうスタイルが親にとってはありがたいなどの言葉もいただいています。公と民間とがうまくサポートしていけば、大津あたりなどは公ができないところを民間が受け皿としてやっています。先生方が助けてもらっているからありがたいわというような言葉も交わしておられますが、そういうバランスについても考える必要があると思います。</p>
会長	<p>実際、運営に携わっておられるからこそ民と公の、どうあるべきかということについてお考えがあるのですね。</p>
委員	<p>先ほどの1章にもどりますが、小中学校は公立しか選べないということをおっしゃっていましたが、岐阜県で市立岐阜商業高校が立命館高校になるお話があって、それが住民の反対でなくなった話がありました。柏原は関ヶ原の隣なんです。だから東の方に通勤しておられる方はたくさんいて、岐阜からだったら私立の高校を選びたいという方がいたら来られるのではないかと。柏原のどこかに学校ができたとして、そんなことで子どもたちがこちらへ通学したりして、活気が出るということはないだろうか。ちょっと突飛な話ですが、思ったりしています。</p>
会長	<p>具体的なアイデアをいただきました。なかなか私学を誘致するということが総合計画で謳えるかという問題もあります。そういうお話もいただしておくのも重要なことだろうと思います。</p>
委員	<p>12ページ、延長保育等の保育サービスについては、今後考えていかなければならないということですが、一時預かりや保育も含まれると思いますが、これはデータ表がありますね、地域の特性というのでしょうか、その中の教育文化の中で、就学前の教育、保育施設の充実ですが、3歳児以上はこれでまかなっていると思いますが、0歳から2歳まで、それから就学前の子どもの人口を見ると、これでまかなえていないのではないかと思うんです。定員の数からして、就学前の子どもの人口。今後、男女共同参画、女性の社会進出というところから見ると、0歳から2歳のところを充実していかなければならないのではないかというのが一点と、それから4章のところの災害に強く生活が便利なほっとするまちのところで言おうと思っていたのですが、先に2章の17ページの上から3つ目。災害時要支</p>

<p>会長</p>	<p>援者避難支援計画を見直しとなっていて、個人情報うんぬんという話があると思いますが、これは平成 25 年に法が改定されていると思います。災害時は当然、個人情報よりも安全を優先しますので、それはやっていかなければなりません。名簿については、市町村長の義務になっていると思いますので、その辺の整理をしていく必要があるのではないかと思います。併せて、福祉の避難所をどのように考えておられるか分かりませんが、その辺のところを考えていただきたいなと思いました。以上 2 点です。</p> <p>私も 17 ページはデータが古いのではないかと思ったのと、それから、障がいを持っている人が入る避難所をちゃんと整備しておくのは非常に重要な話になります。そういうこともちゃんと書いておく必要があると思っています。</p> <p>その前の就学前の子どもの教育の部分は、先ほどのデータと突合した時に今後大丈夫なのだろうかという話ですが、これはやっぱり福祉サイドじゃないと分からないでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>待機児童がいるかというお話とリンクすると思いますが、年度当初はほぼ定員内に収まっている状況です。年度途中で転居されたり、お子さんが増えたとか、預けたいということになると待機児童が発生していますが、年間を通じて 10 人を超える状況ではないと聞いています。</p>
<p>委員</p>	<p>うちもあと 3 人ほど入れて欲しいというお話がありますが、入れない状況ですし、この中に小規模保育であるとか、保育ママ制度をもう少し充実するようなことを書いてもらえばいいのかなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>入所型サービスだけではなく、地域で子どもの面倒をみるような保育ママとか、そういう仕組みというのはやっぱりこれから必要になるでしょう。お手軽にかつ安全に子どもを預けられるような、そういう保育ママの仕組みがあっただろうと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>昨日、三島荘にファミリーサポートセンターができたのではありませんでしたか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在、サポート会員さんで 20 名をちょっと超える方に登録していただいて、学童でも、朝 7 時半からしかお預かりできないので、それまでの間をファミサポに</p>

<p>会長</p>	<p>頼みたいというような問い合わせがあったりしています。子育て支援課の方にもニーズは寄せられています。</p> <p>地域での取り組みはすごく重要ですね。いろいろと御意見をいただいて盛り上がってきたところですが、既に時間を10分超過しています。予定では3章まで行きたかったのですがいけませんでした。次回は既に日程を決めていたのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回は8月21日の金曜日の午後7時からです。</p>
<p>会長</p>	<p>振り返りと課題出しについては、一度全部総なめをしたいと思います。次回は8月21日の午後7時から午後9時までということで、2時間かけてしていきたいと思います。</p> <p>今日、言いたりなかった意見は、下に総合計画審議会委員意見ということで、全部空欄が付いていますから、そこにでも書き込んでいただく、あるいはメール等で担当にお寄せいただければと思います。ではその他について説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回市民ワークショップ（平成27年7月30日実施）の説明および第2回総合計画市民ワークショップ（平成27年8月2日）開催の告知 ・米原市庁舎等整備基本構想の説明
<p>会長</p>	<p>時間が過ぎておりますので、今日のところは、これで終わりにしたいと思います。最後に副会長からお願いします。</p>
<p>副会長</p>	<p>皆さん、活発な議論をされていますので、大変うれしく思っています。ぜひ次回までに予習をしていただいて、あらかじめ書いておいていただいて御意見いただくとスムーズに進行できると思います。一応、副会長ということで、サポートする立場で発言をさせていただきます。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、今日はこれまでということにさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。</p>